

五歳児の記録⑭



磯
部
景
子

二 学 期

実習日

「実習生が保育時間中に部分的に参加して、実習する実習日と、実習生が全責任を持って参加する実習日がある。十月十三日、十四日は後者の実習日である。」

十月十三日火曜日（くもり） つつき

九時三十五分

Kがマラソンをやめて保育室に入る。

I実習生のまわりで子どもたちがモーターボートや動く車やカラスコープをつくっているのを見ている。KはI実習生に、

K「せんせい、なにかつくる」といってあき箱をさがしに行く。

Kははみがきの箱と透明のプラスチックのあき箱を選び出す。

K「てんぼうだいをつくろうかな」といって、しばらく自分で選んだ箱を見ているが、箱をもとの材料箱にもどして、I実習生のところに来て、I実習生がつくっているものを見ている。

AはSといっしょに格納庫をつくっている。

九時四十五分

⑤は色がみを小さく切っている。

モーターボートをつくっていた子どもたちはモーターボートをつくりおえて、糸まきと箸をつかって動く車をつくっている。

Oは糸まきにマジックで色をぬっている。

Kはこんどは茶色の小さな箱を選んできてかめをつくっている。

Dが廊下から保育室にとびこんで来る。

遊戯室でD・R・Bの三人が遊んでいたが、Dが代表して保育室のようすを見に来る。

D「なにつくってるの？自分の好きなもの？」とたずねる。

⑦は色がみを切りながら、

⑤「男の人たちは、ボートつくってるの」という。(実際は男児はモーターボートをつくりおえて、今は動く車をつくっている)

O「マジックで糸まき、ぬっているの」とDにいう。

Dはちょっと保育室のようすを見て遊戯室にかけて行く。

今度はD・R・Bの三人がいっしょに保育室にかけこんで来る。

「自分の好きなもの?」

「つくらなくても、いいんでしょう?」

「じゃ、あそぼう」といって三人で庭に出て行く。

⑥はI実習生に筒の先につけるビニールを出してもらう。

九時五十分

Nは動く車をつくりあげる。

糸まきの穴に輪ゴムをとおして輪ゴムの一方をびょうに結びつけて、びょうと糸まきをセロテープで固定する。他方をわり箸に結びつける。

わり箸をハンドルにしてきりきりとまく。糸まきを床の上において手をはなすと、糸まきがころころところがる。

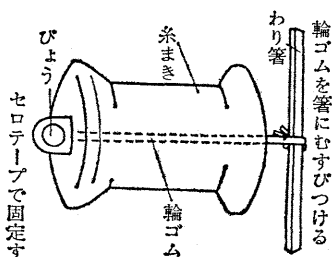
Nは一回だけためして、材料箱のところに持って、円型のボール紙をさがし出す。

Nは動く車を持って堀合先生のところに行く。

N「せんせい、こうでしよう」といってころがしてみる。

先生「あら、よくはしる」といって見る。

Nはひとりで夢中になって、何回もころがしつづける。



をまきすぎてゴムが切れる。

N「切れちゃったじゃない?」とHにおこっている。

(ゴムが切れるということは予想もしていなかったのでもおこる)

Nは材料棚に輪ゴムをとりに行く。

NはOが車をつくっているのを見る。糸まきにゴムがとおしてあるがゴムの一方が固定してないのを見て、

N「セロテープでとめていないから、だめですよ」という。

⑦が庭から入って来る。

⑧のところに行く。

⑨「⑩ちゃんもつくらない?」と⑩は⑨をききそう。

⑪が⑩のとなりにすわる。

HもNと同じように糸まきで動く車をつくっている。びょうがないので、びょうのかわりにわり箸を一センチくらいに切ったのを使ってセロテープで固定する。

Hは次をどうしたらよいかをNのところにききに行く。

H「Nくん、どうしてつくったの?」とたずねる。

ちょうどその時、Nはハンドル

⑤は⑥とはなしながら色がみを切っている。

⑦「ねえ、わたしはすえっこのな。あなたは？すえっこのな、犬がいるからね。うちの犬は十六歳でおじいさんなの。しっぽがこのくらいあるの」と、⑧は指で十センチくらいの大きさを示しながらはなしつづける。

⑨は紙を切りおわってはなしに夢中になっている。

Tが庭から入って来る。I実習生のところに行く。

Tは朝、I実習生のところにいたが、Kにさそわれて庭に遊びに行き、またI実習生のところに来る。

TはI実習生に、

T「なに、つくってるの？ぼくも、なにかつくる」といって、I実習生のまわりでつくっている子どもたちを見ている。

I実習生は男児がいつてくる材料をさがしたり、手伝ったりするのにいそがしくしている。

⑩「せんせい、はやく、はってよ」と、I実習生に筒の先にビニールをはってくれるようにたのむ。

⑪はI実習生が手伝ってくれるのを待っているうちに、材料棚の上になくしたカラスコープを見つける。

⑫はびっくりしてカラスコープを見る。

⑬は朝からつくりかけていたカラスコープを実習生の前において、材料棚の上のカラスコープをとりに行く。

⑭「せんせい、もう、いいの」とI実習生にいう。

⑮はみつけたカラスコープを自分の引出しに入れに行く。

⑯は堀合先生のところに走って行く。

⑰「せんせい、まえになくしたのがあったの」といって庭にとび出す。

しばらくして⑱は保育室に入ってくる。机の下にころがっているどんぐりをふたつとって、堀合先生のところに持って行く。

それから⑲は走ってI実習生のところに行く。

⑳「せんせい、糸をちょうだい」といってI実習生に糸をもらって、堀合先生のところに行つて、先生のとなりにすわって満足そうな顔をしている。

Oが動く車をつくりあげて、車を持って堀合先生のところに行く

O「ぼくの、もう、できました」という。

Nは新しい輪ゴムをとおしてつくりかえたが、ハンドルをまきすぎて、また輪ゴムが切れてしまう。

N「また、バチン、また切れちゃいました」とわらっている。

(今度は輪ゴムが切れてもおこらない)

Nは楽しそうに輪ゴムをつけかえる。

Nは輪ゴムをつけかえて、何回もころがす。

Oは車をだいに持って、保育室内をあちこちと歩いている。

Nが夢中になって車をころがしているのを見て、

O「きょうそうしよう」とNにいう。

Oがハンドルをまわして床の上におく。車はころころこまよくまわる。

Oの車はまだあまりころがしてないのでよくまわる。

NがOの車を見て、

N「はやいの、きみの。ぼくのはじめは、はやかったんだよ」という。

Kはかめを一匹つくりあげる。

縦四センチ、横五センチ、高さ一センチくらいの茶色の箱を体の部分にする。

ねりはみがきのチューブの白いふたを首にする。

マジックの黒で、こうらや、目をかく。

(足はついていない)

K「かめちゃん、かわいいな」といって、満足そうにかめを見る。

Kはつづいて二匹目のかめをつくりはじめる。

Kはかめを二匹つくりおわる。

K「できあがり」といって、うれしそうに二匹のかめをながめる。

二匹目のかめは桐の小箱でつくる。

青のマジックのふたで首をつくる。

しばらくながめていたが、足をつくりはじめる。

わり箸で足をつくろうというろとためしてみるが、箸はやめにして、紙で足をつくりはじめる。

Kは足をすっかりつけおわると、うれしそうにかめを持って堀合先生のところに行く。

K「せんせい、かめ」

先生はKからかめをうけとって、手のひらにのせる。

先生「あら、いいわね。動物園ができた時に仲間にいれるといいわね」といって、紙でできたかめの足を外側に折る。

(かめの足が、かめの足らしくなる)

先生「ほんとかめさんみたいでしょう」といってKにかめをかえす。

Kはともうれしそうな顔をして、だいじに持って、自分の引出しに入れに行く。

それから庭に出て行く。

KはBといっしょにつり輪をする。

一本のつり輪にぶらさがってゆらしたり、つり輪をねじって、それからぶらさがったりする。

I実習生はTにたのまれて、糸まきで車をつくっている。ほとんどの部分をI実習生がつくる。

I実習生はだまって、いっしょうけんめいつくっている。

TはじっとI実習生の手もとを見ている。

Yが車をつくりあげて堀合先生のところを持って行く。先生はハ
ンドルの先端がとがっているのを見て、

先生「I先生に切ってもらっていらっしやい」という。

Yは車を持ってI実習生のところに行く。

Y「せんせい、先のとがっているところを切ってちょうだい」と
いう。

I実習生はTの車をつくるのにいっしょうけんめいでYに応じる
余裕がない。

Yはまちきれなくて、自分で切る。

Y「せんせい、自分で、もう、切ったよ」という。

I実習生はYのいっていることに気づかない。

Yはまわりにいる子どもに、

Y「これ、みてよ。切れてるんだ」といって見せる。

Tの車ができあがる。

TはI実習生から車をうけとって、机の上におく。車はまわらな
い。

T「まわらないよ」と、車を持っていろいろとためしてみる。

T「どうして、まわらないんだろう」

十時二十分

ままごとコーナーで⑤と①があそびはじめる。⑤は山の上から草
をとって来て、ほうちょうで切っている。

九時五十五分〜十時三十九分までの庭のようす

堀合先生が庭を見まわっている。

庭にいる子どもたちが先生を見つけて、先生について歩く。

九時五十五分

魚つりごっこ

Iがわり簪にひもをつけたつり竿を持って保育室から出て来る。

Iは堀合先生を見つけて、先生のところに来る。

先生は魚になってにげる。

Uが魚になってにげる。

U「Iちゃん、たこだぞう」といってにげる。

Iはつり竿を持っておいかけろ。

U「せんせい、たすけてー」といってにげる。

先生も魚のかっこうをしてにげる。

だんだん漁師や魚がふえる。

糸を指にかけて漁師になっている子どももいる。

「大きい、つかまえたぞー」

「入れて、Iちゃん」

I「いいよ」

ふたりでいっしょににげる。

「せんせい、たすけてー」

糸がボタンにひっかかる。

「うあー、つれた、つれた」

㊦が庭から保育室に入る。㊦は堀合先生をさがしている。

㊦「あら、堀合先生は？」といって保育室内を見わたす。

㊦「つり竿をつくりたいんだけど」という。

㊦は先生の姿が見えないのでまた庭に出て行く。

庭で堀合先生を見つける。

㊦は堀合先生につり竿をつくりたいという。

先生「いいんですけどね。はり、ひっかけるとあぶないから」といって箸にひもをつけるだけならいいという。そして、I先生に糸をいただくようにいう。

㊦はI実習生のところに行く。

㊦「ひもだけなら、いいって」とI実習生にいう。

I実習生はわり箸に一メートルくらいの長さの糸をつけて㊦にわたす。

㊦がつり竿を持って、にこにこして庭に出て来る。

Sが魚になってにげる。

遊んでいるうちに、石段のところが魚のほら穴になる。

「しめるといいよ」

「行ってまいります。ちょっと」

「おにごっこでもして来るばい」などといって出かける。

漁師たちは魚を見ないふりをしている。そして、いかにも遠くに

行くようなふりをする。

魚が漁師をよびかける。

C「Rやーい、こっちだよー。Rやーい、どうした——。おに

ー。おにR——」と魚は漁師によびかけながら漁師をおいかける。

魚が漁師につられておいかけて行くと、漁師はさつとふりむいて、魚をつかまえようとする。

十時二十九分

E「たかおにするもの、よつといで」

何人かの子どもたちが高おにをする。十分ほどつづくが、Eが桜の木の下ベンチに上がってラジオ体操をはじめると、

「やーめた」といって子どもたちはちらばる。

十時三十分

保育室

I実習生のまわりで製作 T・Y

ままごと S・①

庭

堀合先生のまわりでどんぐりに糸をとおす

N実習生と Y・F・O・D・R

小さい組の子どもとあそんでいる Cと①

つり N・I・U

ジャングルジム N・M

つり輪 K・B・E

自動車にのって小さい組の子どもと遊んでいる C

高おに E他

保育室

I 実習生はTの車をつくりおわって、Hにたのまれていた車をつくりはじめる。

I 実習生のところはTとYだけになる。

I 実習生はHがいなのに気づいて、

I 実習生「Hくんをよんで来て」というが、T、E、Yも車に熱中している。

I 実習生はHを呼びに行く。

机の上には⑤が置いてあった、はみがきの箱とビニールがそのま
まおいてある。

Tは車をまわしていたが、机の上のビニールを見て、

T「ぼく、らっかさんを、つくろうかな」という。

Tは堀合先生のところに糸をもらいに行く。

先生「どのくらいの長さ？」

T「このくらいの長さ」といって両手で二十センチくらいの長さ
を示す。

Tは堀合先生に糸を四本切ってもらって、保育室に入り、製作の
机のところにもどる。

Tはビニールを十五センチ四方くらいに切る。

T「これじゃみじかいかな。もっとみじかくしよう」といいなが
ら切る。

糸の先をビニールの角の角の角において、ビニールの角をまるめ
て、セロテープでとめる。

T「一個所、できた」

TはYにはなしかけながらつくっている。

T「新宿御苑に行ったときね、蚊にくわれるでしょう。いいくす
りつけてね。……」とはなしつつける。

T「あと三個所だからな」といいながら、前と同じようにして糸
をつける。

T「二個所できた」

Tはセロテープをたくさんきって腕につけておく。

四個所、糸をつけおえる。

Tは四本の糸をあつめる。四本の糸をまとめてセロテープでとめ
ようとする。

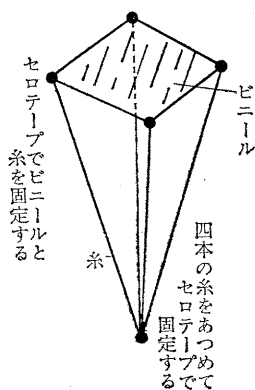
糸が一本ぬける。

T「また、一本切れ
ちゃった」

Tはようやく四本の
糸をまとめて、セロテ
ープでとめる。

十時五十分

落下傘がでかあがる。



T「できた」といって落下傘をくしゃくしゃにたたむ。

Tは中央にまとめた糸がはずれないように、もう一度セロテープでしっかりとまぐ。が、糸が一本はずれる。

T「また、一本、くっついたとおもったら、一本とれちゃった」といって、糸を集めたところをがんばりに、セロテープでかためる。

もう一度しっかりとビニールをつぼめて、落下傘を机の高さから床の上におとす。

T「できた」といってよろこぶ。

十時五十五分

落下傘をひろいあげて、今度は肩の高さからおとす。

T「そうだ、人間をつくらなきゃ」といって、ペープサート用に小さく切った画用紙に人の形を小さくかく。

青い帽子をかぶり、だいたい色の顔をして、青い服、茶色のズボンにする。

顔に目をかき、口をかく。

十一時

I実習生はまわりを少し片づける。

TはI実習生とはなしながら、手や足や靴をかく。かきおわって、はさみで切りぬく。

十一時三分

T「できた。落下傘、落下傘ができた」といって、落下傘を持って庭に出て、すべり台に走って行く。

Tはおおいそぎですべり台にのぼる。
すべり台のおどり場から落下傘をおとす。

(すべり台とジャングルジムのまわりでは、十時五十五分から空想あそびがはじまっている。)

TはEをみつける。

T「ねえ、Eちゃん、落下傘」といって、すべり台をすべっておる。

Tは落下傘をひろって、また、大いそぎですべり台にのぼる。
すべり台や、ジャングルジムのところであそんでいる子どもに、

T「ねえ、落下傘」という。

(だれもTに気づかないで夢中であそんでいる)

TはEを見て、

T「Eちゃん」という。

子どもたちは、それぞれあそびに夢中になっている。

だれもTや落下傘には気づかない。

T「落下傘はもういらないから、しまつてこよう」といってTは落下傘を持って、保育室に走って行く。自分の引出しに落下傘を入れる。

保育室―庭―保育室―庭

保育室にはI実習生とYがいる。

十一時十分

TはYといっしょに、ままごとコーナーからままごと道具を庭に運び出す。

保育室はI実習生だけになる。

十時五十五分～十一時二十分までの空想あそび

庭

庭ではジャングルジムのところで空想あそびがはじまる。

女兒はみんなリスになり、男児は犬になる。

男児はそれぞれ「番犬」とか「ブルドッグ」とか「家にいる犬」など、自分になっている犬をなめる。Eは「サプー」という。

E「サプー、いちばんつよいんだ」という。

ジャングルジムのところでリスや犬が食事をしている。

「とうめい人間が来たよ。とうめいでもわかるの、においで」

四匹の犬が攻めに行く。

E「㊦ちゃん、あんな方に行っちゃったけどだいじょうぶかな」ときがして来る。

「大熊隊が来たよ、大変、たすけて」

「みんな、地下室に入れ」といって、ジャングルジムをくぐって中ほどに集まる。

十一時二分

K「くびのバーベキュー、食べにおいで」

「Eちゃん、あそこ、たきだよ」といってすべり台をさす。

「そこに、熊がいるよ。ほら穴だよ」

「バーベキューのにおいにつれられて、大熊くるよ」

「これ、くすりだよ。くすり、つくってるの」

「火がたりないよう」

「たんけんに行こうか。行こう」

「手紙、かいとかなきゃ」

「番犬にしかられるよ」

「おつ、みんな、たきのうみで、死んでこよう」

「あぶないぞ」

「さっき死んで、また、いきかえったの」

㊦がたきのまん中で死んでいる。顔の前にバドミントンをさしている。

犬もリスもみんな死んだふりをする。

㊦がおきあがり、たきからジャングルジムに帰って来てたおれる。

㊦「みんな死んでいる」

「番犬も」

皆でキャー、キャーといって遊んでいる。

十一時十五分

庭

ジャングルジムとすべり台のところで動物になってあそぶ。

E・K・B・㊦・㊦、他

ままごとあそび、 T・Y

野球

その他

子どもの家であそんでいる。

©・①・⑤・⑩・⑬・⑮・⑧・①・M

保育室

I実習生が片づけている。

十一時二十分

片づけになる。

子どもの家では、㊦が命令してみんながかたづけている。

㊦「まだ積木がかたづけてないわ。そんなところ、ふらふらしてないでかたづけなさい。かたづけないと、せんせいにおこられちゃうわ」という。

十一時三十分

子どもたちが保育室に帰って来ると、I実習生は子どもたちがいすにすわって歌がうたえるように、いすをきれいに並べおえている。I実習生は保育ブロックや積木をかたづけている。子どもたちもかたづける。

㊦はぬいぐるみの犬をきれいに並べる。

I実習生にうながされて、子どもたちはいすにすわる。

黒板にタイの国の歌がかいてある。

N実習生「じゅうぶん外であそびましたから、これからいっしょに歌をうたいましょ」

I実習生がピアノをひき、実習生がピアノに合わせて小さい声でうたう。

「大きくしてくれないとわかんない」「わかんないよ」

「ちっとも、きこえないわよ」と子どもたちがガヤガヤという。

N実習生「じゃ、こんど、うたいましょ。大きい声で、I先生もいっしょにうたいましょ」という。

I実習生のピアノに合わせて、子どもたちが小さい声でうたう。

N実習生「この歌、先生の国の歌です。N先生のお国はタイなんです。オリンピックで七十何人か来てるんですって。この歌は楽しい時にうたう歌です、もう少し、はやくうたいましょね」

I実習生のピアノに合わせて、みんなでうたう。

子どもたちは黒板を見てうたう。

うたいおわって、だれかが、

「タイは何がつよいですか？」とN実習生にたずねる。

N実習生「ボクシングです」子どもたちはガヤガヤいう。

I実習生「お天気の良いとき、遠足に行ったときにうたいましょね」という。

歌のあと実習生のピアノに合わせて、スキップで保育室を一周する。

I実習生「さっきの席につきましょ」という。

子どもたちはみんな席につく。
もう一度タイの国の歌をうたう。

昼食後のようす

保育室

午前中、製作をしていた机のところで、NとYが何かつくっている。

午前中AとSがあそんでいたところは、飛行機と格納庫ができていて、A・H・T・R・B・Iがあそんでいる。

庭

たいこ橋のところ ㊦・㊧・㊨・㊩

つり輪のところ ㊪・㊫

ジャングルのところ S・U・㊬

十三時十分

あつまりのレコードがなりだす。

子どもたちはあつという間に二列に並ぶ。

㊭はレコードに合わせておどりながら列に加わる。

レコードに合わせて、幼稚園全体で体操する。

体操がおわって、レコードに合わせて庭を

行進する。

当番のMと㊭が相談しながら行進の道程をきめる。

行進をおわって、みんなが片づけはじめ。堀合先生はなわとびのなわを一本ずつきれいにむすんでいる。

YがNに小さい声ではなしている。

Y「あした、あさからね、ひみつ。基地ごっこしようね」

Nはききおわってうなづく。

女兒がロケット型のブロックキャップを床の上で色別に長くつないでいる。

「わたし、赤色がかり」

「わたし、黄色がかり」といっている。

あるだけ全部の保育ブロックをつなぎおわ

る。

先生「あーら、すごいわね」といって見る。
子どもたちは全部つなぎおわってから、箱に入るだけの長さに切って、箱に入れていく。

(つづく)

(お茶の水女子大学)

幼児の教育 第六十七巻第八号

八月号 ©定価八〇円

昭和四十三年 七月二十五日印刷
昭和四十三年 八月 一日発行

東京都文京区大塚二ノ一ノ一
お茶の水女子大学附属幼稚園内

編集兼 津 守 真
発行者

東京都文京区大塚二ノ一ノ一
お茶の水女子大学附属幼稚園内
発行所 日本幼稚園協会

東京都板橋区志村一ノ一
印刷所 凸版印刷株式会社

東京都千代田区神田小川町三ノ一
発売所 株式会社 フレーベル館

振替口座東京一九六四〇番
◎本誌御購読についての御注文は発売所
所 フレーベル館にお願いいたします